FRH-SD07T 取扱説明書誤記訂正

第 1 号　第 2 版
2001 年 8 月 30 日
双葉電子工業株式会社
無線機器グループ

FRH-SD07T の取扱説明書（第 1, 2 版）に誤記、不足がありましたので、下記のように訂正させていただきます。ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

【7.2 ダイレクト通信モード】

第 1, 2 版での記述（誤）

7.2.2 送信動作 送受信の切り替えは制御線で行ないます。ＲＴＳ端子をＬｏレベルにすると送信状態になります。

実際の内容（正）

7.2.2 送信動作 送受信の切り替えは制御線で行ないます。ＲＴＳ端子をＬｏレベルにすると送信状態になります。<u>送信開始条件はＲＴＳの立下りにて検出を行っておりますので、リセット時にはＲＴＳ端子をＨｉとし受信状態で開始し、ＤＳＲのＬｏレベルを確認後、ＲＴＳを立ち下げて送信開始としてください。</u>

第 1, 2 版での記述（誤）

7.2.5.3 同期クロックのタイミングチャート 図 7-5：送信同期クロック詳細タイミングの下 ３．ＤＣＤ（出力）の立ち上がりの１．７５μｓ前にＴｘＤ のデータが取り込まれます。ＤＣＤ（出力）の立ち上がりを検出してＴｘＤ のデータを切り替えてください。ＤＣＤ 出力のクロックのＨの長さは<u>８７５ｎｓ</u> です。

実際の内容（正）

7.2.5.3 同期クロックのタイミングチャート 図 7-5：送信同期クロック詳細タイミングの下 ３．ＤＣＤ（出力）の立ち上がりの１．７５μｓ前にＴｘＤ のデータが取り込まれます。ＤＣＤ（出力）の立ち上がり<u>（立下りでも可）</u>を検出してＴｘＤ のデータを切り替えてください。ＤＣＤ 出力のクロックのＨの長さは<u>１．７５μｓ</u> です。

第 1, 2 版での記述（誤）

7.2.5.3 同期クロックのタイミングチャート 図 7-6：受信同期クロック詳細タイミングの下 ４．ＤＣＤ出力の立ち上がりの８７５ｎｓ前にＲｘＤのデータが変化します。ＤＣＤの立ち上がりを検出してＲｘＤのデータを取り込んでください。ＤＣＤ出力のクロックのＨの長さも８７５ｎｓです。

実際の内容（正）

7.2.5.3 同期クロックのタイミングチャート 図 7-6：受信同期クロック詳細タイミングの下 ４．ＤＣＤ出力の立ち上がりに同期してＲｘＤのデータが変化します。ＤＣＤの立ち下がりを検出してＲｘＤのデータを取り込んでください。ＤＣＤ出力のクロックのＨの長さは８７５ｎｓです。

上記に関係しての図の修正は下記のとおりです。図中の 825ns は 875ns の間違いです。

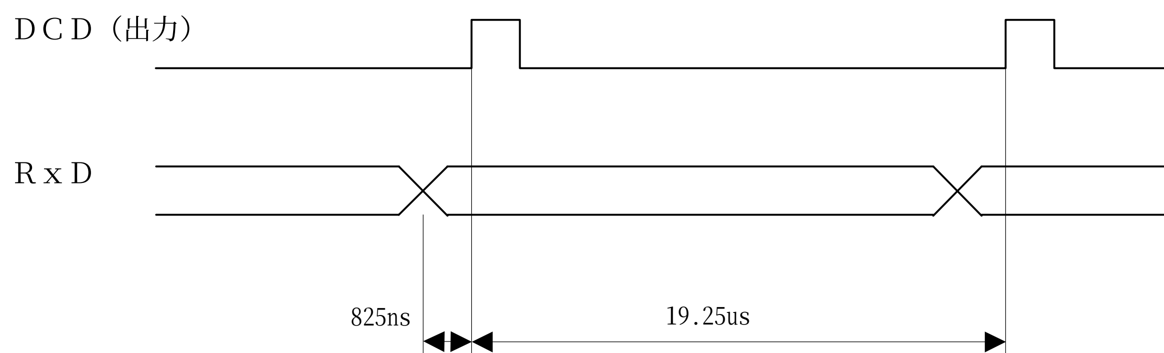


図 7-6：受信同期クロック詳細タイミング(誤)

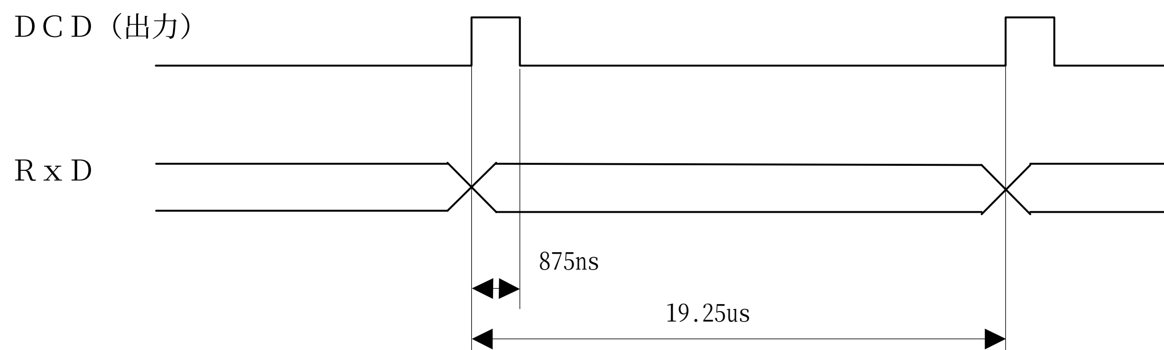


図 7-6：受信同期クロック詳細タイミング(正)

【7.1.3 ヘッダレスストリームモード（通信モード７ ）】

このモードは制限事項第 4 号のとおり、不具合があるため、使用を禁止し、併せてマニュアルから記述を削除します(第 2 版以降で対応)。

【バグ情報その他】

現状確認されているバグについて以下に記載します。

① ACK 受信時、まれに空のパケットデータが連続して送出される　(制限事項第 1 号)
② モード 7(ヘッダレスストリームモード)ポインタ更新の不具合　(制限事項第 4 号)
③ パケット・ヘッダレスパケット送信モードでの送信コマンドエラー後の誤受信の不具合　(制限事項第 5 号)

※ 制限事項 2 号は減電圧時の不動作、3 号はケースネジ締め付けトルクの件ですのでゲートアレーの不具合とは関連ありません　(それぞれ初期生産品についてですので改善予定です)

※ ②のモード 7 については第 1 版の取扱説明書に機能が記載されていますが、2 版では削除しております。

来歴

第 1 版	2001/8/29	初版
第 2 版	2001/8/30	誤記訂正